

音読

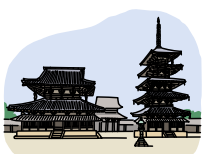
短歌のリズムと言葉を味わおう
短歌音読プリントの学習の手引き

年

名前

短歌の音読と暗唱の手引き

音読で、短歌に親しみましょう



短歌（たんか）とは、日本で古くからうたわれてきた和歌の一つです。**五・七・五・七・七**の三十一音から成ります。自然の風景をよんだり、事実をありのままよんだり、気持ちをよんだりしています。短歌がもつリズムを感じ取ったり、情景を思い浮かべたりしながら読みましょう。

短歌の持ちようを知り、情景を思い浮かべて、音読に生かしましょう。

形式

・五・七・五（上）上の句、七・七（下）下の句（三十一音のリズムで成り立ちます。

第一句 第二句 第三句 第四句 第五句

秋来ぬと

目にはさやかに

見えねども

風の音にぞ

おどろかれぬる

（藤原敏行）

・字余り、字足りず

三十一音より多くなることを字余り、少なくなることを字足りずと言います。

表現の工夫…短い字数で表現するための様々な工夫が見られます。主なものを紹介します。

比喩や倒置法

金色の **ちひさき鳥の** **かたちして** **銀杏ちるなり** **夕日の岡に** （与謝野晶子）

・ **比喩（ひゆ）**…たとえてうたうことで、生き生きと実感させる効果があります。

夕日に照らされて銀杏の葉が散ってゆく様子を、金色をした小さな鳥にたとえています。

・ **倒置法（とうちほう）**…言葉の順序を逆にすることで、意味を強める効果があります。

「夕日の岡に銀杏散るなり」を「銀杏散るなり夕日の岡に」とし、意味を強めています。

句のとめ方や枕詞

天の原 **ふりさけ見れば** **春日なる** **三笠の山に** **出でし月かも** （安倍仲麻呂）

・ 「かも」でとめることで、月をみて故郷をなつかしむ気持ちを強く表しています。ほかにも、「けり」「かな」などでとめることがあります。

春過ぎて **夏来にけらし** **白妙の** **衣干すてふ** **天の香具山** （持統天皇）

・ **枕詞（まくらことば）**…ある特定の言葉を修飾し、短歌の調子を整え、気分をそえます。

「白妙の」は「衣」にかかるまくらことばで、言葉の調子を整えています。

・ **体言止め**…しじみとした味わいが出るように、第五句を名詞でとめた表現。右の歌は、第五句を「天の香具山」でとめています。

短歌の暗唱に挑戦したり、短歌の大まかな内容を言ったりしましょう。